

くすのき



岡本小学校 No.3

令和2年5月18日

今年度のキーワード
『信頼と共生のワンチーム』

学びたくなる気持ち

例年とは全く異なるゴールデンウィークが終わり、「コロナ疲れ」という言葉が巷に溢れています。

いつもなら今頃は運動会の練習真っ盛りといったところですが、静まりかえったグラウンドを見ているととても悲しくなります。

先週は、学級担任が子どもたちの健康や家での生活態度を案じ、個々に電話連絡をさせていただきました。様々な家庭事情がある中で、ご対応をいただきましてありがとうございます。直接、子どもたちと話ができた担任からは、多くの喜びの声が聞こえてきました。

「これまで話ができなかった子どもと話ができ、安心しました。」

「おとなしい子だと思っていましたが、電話ではとてもよく話をしてくれて、本当は話し好きな子なのだとわかりました。」子どもたちの元気な様子に、ほっと胸をなでおろしているところです。

一方で複数の保護者の方々から、こんな声が聞かれました。

「やり終えてないプリントがありますが、どうしたらよいですか。」

「朝なかなか起きられず、親子で疲弊しています。」

「一律の時間割のようなものを出してほしいです。」

「子どもが自由にネットを使える環境がないので、プリント学習をさらに充実させてほしいです。」

3か月にも及ぶ休校という前代未聞の出来事ですから、保護者の皆様のこうしたご心配は当然のことです。学校に相談していただけることは、『信頼』の第一歩だと受け止めております。

また、4月下旬には、マチコミメールを通じてアンケートを依頼させていただきました。このアンケート調査の結果から、岡本小学校の子どもたちの実態がより明らかに見えてきました。

◎健康状態の良い子どもが多い。

○落ち着いた生活をしている子どもの割合が高い。

△学習にあまり進んで取り組めない子どもがいる。

これらの結果や保護者の声を受け、学年主任会で岡本小学校の今後の方向性を決めました。その後、「ちえづくり」の知育教育部、「こころづくり」の情操教育部、「からだづくり」の健康教育部の3部会に分かれ、具体的な改善策について話し合いました。

その際に決定した今後の家庭学習のあり方について、以下にまとめました。

～5月14日(金)まで

『担任の声を届けよう週間』

☞学習への意欲を高める作戦

- ・担任の声を電話で届ける
- ・eラーニングでメッセージを届ける
- ・先生クイズに取り組むなど、オンライン学習を楽しむきっかけづくりをする

5月18日(月)～5月31日(金)

『進んで学ぼう週間』

☞運動・学習を習慣化し、自分で生活を整える作戦

- ・国語、社会、理科を中心とした予習プリントと、算数を中心とした復習プリントに毎日取り組む
- ・体を動かす活動を毎日行う
- ・さらに余裕のある人は、自由課題(好きなことや興味のあることを深める課題)に取り組む
- ・日々の実践については『週予定』に記録する
- ・一週間の最後には自分自身の生活をふりかえる

学校現場であれば、個に応じた指導や対応が可能ですが、今はそれができません。我々教職員は本当に歯がゆい気持ちでいっ

ばいです。今回の課題では、取り組む日を示した一律の課題プリントで学習量を確保するとともに、「自学(自主学習)」を通して主体的な学びの態度の育成を推進しています。ご家庭ではお子さんに応じた量に調節したり、ヒントを与えたりして、進んで課題に取り組めるように応援をしてあげてください。子どもは一人ひとりみんな違います。その子にあった学びの方法、その子にあった上手な時間の使い方を一緒に考えてあげていただけるよう、ご協力お願いいたします。

めざすは、「学ぶことは楽しい」という気持ちを育てることです。このことは、必ずや次の学習につながり、生きる力になります。

不安な点やお困りのことがありましたら、今後も学校を信頼し、ぜひご相談ください。

【延期】現時点で延期する行事等

(延期の時期は未定)

- ・各種健康診断
- ・修学旅行
- ・運動会
- ・絵本の会
- ・学校公開

学校だより & HP をお読みいただき
ありがとうございます。

今後も HP を更新してまいります。

A2:ここは田んぼに生まれ変わります。

5年生の学びの場です。

秋の収穫が楽しみです。

A1:機の修理をしています。

みんなが使いやすいようにと、機の穴を埋める
など全員分の机を点検しています。

A3:キャベツを大好物とする
チョウを育てるために植えています。

もちろん、無農薬!

3年生が理科で学びます。

ひとりごと

『モモ』という児童文学があります。作者はミヒヤエル・エンデです。映画にもなりました。町の人たちはモモに話を聞いてもらえると幸せな気持ちになるのですが、そこへ「時間どろぼう」の魔の手が忍び寄り……というお話です。この物語の中にこんな言葉がでてきます。

「その時間にどんなことがあったかによって、わずか一時間でも永遠の長さに感じられることもあれば、ほんの一瞬と思えることがあります。なぜなら、**時間とは生きるということ**、そのものだからです。」

先日、中学生のお子さんを持つお母様と話す機会がありました。休校が長引き、部活もなく、さぞかし時間を持て余していると思いきや、その方がおっしゃるには「結構、楽しんでる」というのです。はじめのうちこそ、ただだとテレビの前にいる時間が長かったそうですが、そのうち、友達とオンライン画面でつながり、一緒に宿題をする時間を共有するようになったそうです。時にはおしゃべりをしながら、時には教え合いながら、何時間も机に向かって楽しそうにしている姿を見ると、「私のスマホですが、いつまでもどうぞ」という気もちになるそうです。これがそのまま小学生には当てはまりませんが、その子なりの学び方、時間の使い方を見出すためには、だれかと共に時間を共有するということも有効手段だと思います。

突然与えられた休業中の多くの時間をどう使うかは、一人ひとりに任されています。「計画的に何かをこなす」という時間の使い方はもちろんですが、普段はなかなかできない「自分の好きなことに没頭する」「だれかのために使う」そんな時間の使い方もできると思います。モモのように「周りにも幸せを与えられる人」に近づけるかもしれません。